

平成27年 1月29日

事業経過報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

都道府県教育委員会等名 熊本市教育委員会

所 在 地 熊本県熊本市中央区手取本町1番1号

代表者職氏名 教育長 岡 昭二

平成26年度英語教育強化地域拠点事業における事業経過報告書を提出します。

1. 事業の実施期間

委託を受けた日 ～ 平成27年3月31日

2. 強化地域拠点の学校名 (学校数が多い場合は欄を追加すること)

ふりがな	くまもとしりつひつゆうかんこうとうがっこう	ふりがな	しろおさ しんじ
学校名	熊本市立必由館高等学校	校長名	城長 眞治
ふりがな	くまもとしりつにしきがおかちゅうがっこう	ふりがな	こうづま あきひと
学校名	熊本市立錦ヶ丘中学校	校長名	上妻 昭仁
ふりがな	くまもとしりつおのうえしょうがっこう	ふりがな	ながお ひでき
学校名	熊本市立尾ノ上小学校	校長名	長尾 秀樹
ふりがな	くまもとしりつやまのうちしょうがっこう	ふりがな	いわした ゆうじ
学校名	熊本市立山ノ内小学校	校長名	岩下 勇治
ふりがな	くまもとしりつつきでしょうがっこう	ふりがな	おがた こうじ
学校名	熊本市立月出小学校	校長名	緒方 浩二

3. 研究内容

(1) 研究開発課題

英語によるコミュニケーション能力の育成をめざし、小学校におけるALT等を活用した文字の系統的な指導と小中高一貫したCAN-DOリストの目標設定による評価の研究を柱として、小中高の接続を重視した英語教育の研究開発に取り組む。

(2) 研究の概要

- 熊本市では、現在、富合小中一貫特例校と植木地区8小学校の教育課程特例校により、小学1年生からの先進的な英語教育を研究、検証しているところである。その成果と課題を踏まえて、英語教育の早期化と教科化にむけて教育課程の在り方と授業内容を研究する。
- 中学・高等学校において語彙力向上とコミュニケーション能力の育成をめざし、小学校の段

階で、文字や音声と文字の関係(フォニックス)などについて系統的な指導を行い、成果と課題を明らかにする。

- 小学校卒業段階で初歩的な英語運用力を育てるため、小学校での「読むこと」「書くこと」、文法の指導のあり方を研究し、検証する。
- 担任単独、担任とALT、ALT単独、英語専任教員など、効果的な指導体制の在り方を研究する。
- 小学校と中学校、高等学校の綿密な連携を図り、小学校における教科化を受け、小中高を通じたCAN-DOリストによる目標設定と指導内容についての研究を行う。

(3) 現状の分析と仮説等

① 現状の分析と研究の目的

ア 現状の分析

○ 本市の英語教育について

- ・熊本市北区植木地区8校の小学校は教育特例校として、南区富合小中学校は小中一貫特例校として、小学校1年生から6年生まで英語活動の授業を行っているが、熊本市中央に位置する地域においても先進的な取組を行う研究開発を行い、小学校英語の早期化・教科化に向けてその成果を広める必要がある。
- ・本市の全小学校においては、ALTとのチームティーチングの授業を年間15回程度行い、文部科学省配付のデジタル教材や本市作成英単語絵カードを活用しながら、楽しく英語を学んでいる。また、6年生では、文字に興味をもつ児童も少なくない。
小学校と中学校の連携については、必要性は感じているが、交流等は盛んではなく、中学生にとって小学校外国語活動と中学校英語の学習の段差は大きい。
- ・本市の中学校においては、全校にデジタル教科書を配布し、基礎・基本事項を徹底するとともに、ALTとのチームティーチングの授業(年間20回程度)に加え、希望校には複数のALTを派遣し、ALTと生徒1対1の本市独自のスピーキングテストを行い、英語による表現力とコミュニケーションへの意欲を高めているところである。

○ 本地域の学校について

- ・尾ノ上小学校は、平成25年度に「伝え合う力を高める教育活動の創造」をテーマに研究発表を行い、成果として児童に言葉によるコミュニケーション力が育まれており、職員の研究体制も確立できている。英語教育強化地域の研究開発の牽引力をもつ小学校である。
- ・錦ヶ丘中学校は、平成23年度に「学力向上」の研究発表会を行い、成果を上げている。生徒も落ち着いており、職員の研究体制も整っている。

イ 目的

小学校から楽しみながら、音声と文字の関係(フォニックス)、初歩的な「読むこと」「書くこと」「文法」を系統的に指導し、中学校・高等学校におけるより高度な英語教育につなげていく。

② 研究仮説

ア 手段

- ・ALT等を活用して、少しずつ音声と文字の関係の指導について系統的に導入する。
- ・小学生から「読むこと」「書くこと」を少しずつ系統的に導入し、使える語彙を増やしていく。
- ・小学5, 6年生から、会話を通して初歩的な「文法」の指導を行う。
- ・中学校、高等学校において、小学校の指導をふまえたより高度な授業を行う。

イ 期待される効果

音声と文字の関係、初歩的な「読み」「書き」を習得することにより、小学校卒業時には、初歩的英語運用力が身に付き、中学校・高等学校において、より高度な語彙力、コミュニケーション能力の育成が可能になり、総合的な英語力の向上へつながる。(英検取得率の向上、NRT全国偏差値の向上)

③ 研究成果の評価方法

- 事前実態調査と毎年度末の実態調査(児童、生徒、教員、保護者)と調査結果の分析
- スピーキングテスト(小・中学校)による英語力の調査と分析、経年比較、他校との比較
- 外部試験(児童英検・英語検定)による英語力の調査と分析、経年比較
- 全国標準学力検査(NRT)による英語学力の調査、経年比較、他教科への影響等の分析

(4) 研究開発型

	開始学年及び週当たり授業時数コマ			
	第一年次	第二年次	第三年次	第四年次
従来の 外国語活動	第5, 6学年 1 コマ	第5, 6学年 1 コマ		
① 小学校 外国語活動型	第3, 4学年 0.4コマ	第3, 4学年 1 コマ	第3,4学年 1~2コマ	第3,4学年 1~2コマ
② 小学校 教科型	第 学年 0 コマ	第5, 6学年 2 コマ	第5, 6学年 2 コマ	第5,6学年 2~3コマ

(5) 研究計画(平成26年度の進捗状況・課題)

○第一年次～第四年次、校種別

① 第一年次

- 英語教育強化地域拠点小中高連絡協議会を設置し、小学校・中学校・高等学校が連携して具体的に指導体制づくりの準備と研究を進める。

【小学校】

- 小学校英語の全体計画の作成
- 各学年におけるCAN-DOリストによる学習到達目標設定とそれをふまえた年間計画等の

作成、評価方法などの研究

- 各学校において校内研究としての位置づけ
- 研究校視察、研修、インターネット等を通して実践事例等の情報収集
- 音声と文字の関係（フォニックス）について指導法や活動の研修
- 「読むこと」「書くこと」についての独自教材の開発（作成中）
- 中学校区内小学校公開授業の実施と中学校の公開授業に参加（幼小中連携の日）
- 小学校授業研究会（外国語活動）の参加と中学校授業研究会（英語）に参加（学びわくわく授業研究会）
- 本市全小学校・中学校・市立高校を対象とした公開授業
- 各学校の環境整備（ALT の派遣日数の増加、英語教室の整備など）
- アンケート調査（実態調査）
- 授業の実施
 - 第3学年・・・Hi, friends!1 を参考にオリジナルの指導計画に基づき、9月から月2回程度「外国語活動型」を実施した。
 - 第4学年・・・Hi, friends!1 を参考にオリジナルの指導計画に基づき、9月から月2回程度「外国語活動型」を実施した。
 - 第5学年・・・Hi, friends!1 を活用した外国語活動を、週1時間実施した。
 - 第6学年・・・Hi, friends!2 を活用した外国語活動を、週1時間実施した。

【中学校】

- 年間7回のコミュニケーション能力の育成に関する校内研修の実施
- 時数増に伴ったCAN-DOリストによる目標設定と年間指導計画の見直し
- 給食時間の放送部員による英語アナウンス放送
- 放課後や夏休みを利用した「学びノート」活用による学びの場の設置
- 小学校授業研究会の参加と中学校授業研究会（英語）に参加（学びわくわく授業研究会）
- 中学校区内公開授業の実施と小学校の公開授業に参加（幼小中連携の日）
- 熊本市イングリッシュキャンプの優先参加
- ALT の派遣回数的大幅な増加及びそれに伴う効果的な活用
- 中学1、2年生全員を対象とした英語検定試験の実施及び結果分析
- ALT による熊本市スピーキングテストの実施

【高等学校】

- 必由館高校普通科国際コースを核とした本事業の推進
- ALT の派遣回数増加に伴う指導計画の工夫
- 錦ヶ丘中学校との中高連携の強化推進
- 英検等、外部機関による学習者の英語評価及び結果分析
- 小学校、中学校の公開授業と授業研究会に参加

第二年次

【小学校】

(1) 3, 4年生の「外国語活動型」を35時間、5, 6年生の「教科型英語」を70時間、実施する。

- 第3学年 Hi, friends!1 を活用した「外国語活動型」を、週1時間実施する。
- 第4学年 Hi, friends!1 を活用した「外国語活動型」を、週1時間実施する。
- 第5学年

Hi, friends!1,2 や文部科学省作成予定の補助教材やオリジナルワークシート等を活用した「教科型英語」を、週2時間実施する。

*独自教材「マイABCパスポート」活用

- 第6学年

Hi, friends!1,2 や文部科学省作成予定の補助教材やオリジナルワークシート等を活用した「教科型英語」を、週2時間実施する。

*独自教材「マイABCパスポート」活用

- 4年生において、フォニックスソングを活用してフォニックスに慣れさせ、親しみを持たせる。高学年におけるフォニックスの導入
- 学びわくわく小学校授業研究会における研究授業と授業研究会
- チャレンジタイムの開発（植木地区小学校のスピーチテスト改訂）と実施
- アンケート調査の実施と分析

【中学校】

- 本事業におけるPDCAサイクルの見直し及び小中高連携の強化
- 小学校の学習内容を把握した上での指導研究と実践
- 小学校における「教科型」英語の授業交流と授業研究
- 小学校「教科型英語」を経験した生徒向けの学習内容の高度化等の研究と指導計画
- 英語の授業における英語使用量の増加
- ALTの系統的効果的活用の継続研究
- イングリッシュキャンプの優先参加及びイングリッシュビデオコンテストへの取組
- ALTによる熊本市スピーキングテストの実施、比較分析

【高等学校】

- 必由館高校普通科国際コースを核とした本事業におけるPDCAサイクルの確立
- 錦ヶ丘中学校との効果的な中高連携の研究
- コミュニケーションを重視した英語の授業内容の研究と実践
- 小・中学校との授業交流及び授業研究
- 英検等外部機関による学習者の英語評価及び結果分析、経年比較

③第三年次

【小学校】

- (1) 3, 4年生の「外国語活動型」を35時間～70時間、5, 6年生の「教科型英語」を、70時間実施予定
- 第3学年
 - ・ Hi, friends!1,2等を活用した「外国語活動型」を、週1～2時間実施予定
 - ・ ALTとJTEによるフォニックスソングの導入
 - 第4学年
 - ・ Hi, friends!1,2や文部科学省作成予定の補助教材または独自教材等を活用した「外国語活動型」を、週1～2時間実施予定
 - ・ ALTとJTEによるフォニックスの導入
 - 第5学年
 - ・ Hi, friends!1,2や文部科学省作成予定の補助教材等を活用した「教科型英語」を、週2時間実施予定
 - ・ 独自教材「マイABCパスポート」活用
 - 第6学年
 - ・ Hi, friends!1,2や文部科学省作成予定の補助教材等を活用した「教科型英語」を、週2時間実施予定
 - ・ 独自教材「マイABCパスポート」活用
 - 3年生から6年生にかけてのフォニックスの系統的な指導
 - 学びわくわく小学校授業研究会における研究授業と授業研究会
 - ALTによるチャレンジタイムの実施と比較分析
 - アンケート調査の実施と比較分析

【中学校】

- 本事業におけるPDCAサイクルの見直し及び小中高連携の更なる強化
- 小学校の「教科型」英語を学習した生徒への指導内容の研究と実践
- 英語による授業実践
- 中学生全員に英語検定を実施、結果の経年分析と他校との比較分析
- ALTの系統的効果的活用の研究の深化
- イングリッシュキャンプの優先参加及びイングリッシュビデオコンテストへの取組
- ALTによる熊本市スピーキングテストの実施と比較分析

【高等学校】

- 必由館高校普通科国際コースを核とした本事業におけるPDCAサイクルの深化
- 錦ヶ丘中学校とのより効果的な中高連携の確立
- より高いコミュニケーション能力をめざしたコミュニケーション重視の英語の授業内容の研究の深化及び実践
- 小・中学校との授業交流及び授業研究、指導計画研究

- 英検等外部機関による学習者の英語評価及び結果分析、経年比較

④第四年次

【小学校】

- 小学校の公開授業と実践発表
- 研究のまとめ
- 3, 4年生の「外国語活動型」を35時間～70時間、5, 6年生の「教科型英語」を、70時間～105時間実施予定。
- 第3学年
 - ・ Hi, friends!1,2等を活用した「外国語活動型」を、週1～2時間実施予定
 - ・ ALTとJTEによるフォニックスソングの導入
- 第4学年
 - ・ Hi, friends!1,2や文部科学省作成予定の補助教材または独自教材等を活用した「外国語活動型」を、週1～2時間実施予定
 - ・ ALTとJTEによるフォニックスの導入
- 第5学年
 - ・ Hi, friends!1,2文部科学省作成予定の補助教材を活用した「教科型英語」を、週2～3時間実施予定
 - ・ 独自教材「マイABCパスポート」活用
- 第6学年
 - ・ Hi, friends!1,2文部科学省作成予定の補助教材を活用した「教科型英語」を、週2～3時間実施予定
 - ・ 独自教材「マイABCパスポート」活用
- 3年生から6年生にかけてのフォニックスの系統的な指導
- ALTによるチャレンジタイムの実施と経年比較分析
- アンケート調査の実施と比較分析

【中学校】

- 小学校及び中学校の公開授業と実践発表
- 小学校の「教科型」を学習した生徒への指導内容の研究と実践
- 英語による授業実践の深化
- 中学生全員に英語検定を実施、結果の経年分析と他校との比較分析
- イングリッシュキャンプの優先参加及びイングリッシュビデオコンテストへの取組
- 熊本市スピーキングテストの実施と経年比較、他校との比較分析
- 標準学力検査NRTによる学力分析と他教科への影響の分析
- 研究のまとめ

【高等学校】

- 高等学校における公開授業
- 研究のまとめ

★ 平成26年度の進捗状況・課題

○小学校第3、第4学年

- ・授業に関しては、2学期から尾ノ上小学校においてのみ「外国語活動型」を先行実施。専科教員がT1、担任がT2、ALTの来校時には、専科、担任、ALTの3人で授業を実施した。なお、他の2小学校は、ALTの来校時に、総合的な学習の時間において、担任とALTとのTTで国際理解と英会話として外国語活動を行った。2学期以降、学期に3回実施。
- ・実態調査は2月に実施予定。

○小学校第5、第6学年

- ・尾ノ上小学校では、専科教員がT1、担任がT2となり「外国語活動」のTTの授業を実施。ALTの来校時は、3人で授業を行った。他校では担任中心で授業を行い、ALT来校時にTTで授業を実施した。
- ・授業時数に関しては、次年度は、週2時間で実施する予定。その2時間に関しては、教科型英語の段階的な導入を考えて、外国語活動を1時間、教科型英語を1時間、それぞれ実施する予定。三年次の、中学年の外国語活動週2時間、高学年教科型英語週2時間を経て、四年次では、教科型を週2.3時間で設定している。その内訳は、45分単位の授業を2時間、15分のモジュールを週1回実施する予定である。
- ・教具に関しては試用予定だった「reading & writing handbook」は、作成途中で名前を「マイABCパスポート」に変更し、現在、最終段階に入っているため、試用できなかった。来年度から活用予定。また、名刺大のピクチャーカード「えいごまなびくと」の「気持ちセット」「果物セット」「生活セット」を活用し、自分自身のことを伝え合う活動に活用した。
- ・CAN-DOリストや年間計画は作成したが、尾ノ上小学校の実践に基づき引き続き検討を重ねながら、次年度につなげていきたい。
- ・実態調査は2月に実施予定。

○中学校

- ・授業改善に関しては、導入時にHi, friends!の活動内容やデジタルを活用するなど、小学校での学びとのつながりを図った授業づくりを行った。
- ・教育課程特例で英語の時数が増えた授業に関しては、英検の問題を活用した言語活動を取り入れた授業づくりを行った。
- ・スピーチテストの正式名称をスピーキングテストで統一。以下、同じ。
- ・学校の英語環境に関しては、給食の時間のALTの活用はできなかったが、放送部において、イングリッシュキャンプに参加した生徒のリーダーシップで、放送部員による給食の時間の英語による放送を実施している。また、イングリッシュビデオコンテストへの取り組み

については、本年度は行わなかったが、来年度は取り組む予定。

- ・CAN-DO リストや年間計画は見直しを行ったが、次年度以降、小学校や高校との連携を強く意識しながら、次年度の実践に基づき引き続き検討を重ねながら、次年度につなげていく。
- ・外部評価に関しては、当初1年生に限って全員に英検を受検させ、基礎資料にし、2年生は例年通り希望受検にする計画だったが、特別割引制度利用で2年生もほぼ全員受検することとなった。

○高等学校

- ・大学入試改革に伴い授業改善に向けた取り組みを行っている。
- ・指定を受けている高校には、指定を受けている中学校出身の生徒が少ないため、研究推進上、更なる工夫が必要である。
- ・CAN-DO リストや年間計画に関しては、次年度の実践を通して見直しを図っていく考えである。
- ・イングリッシュキャンプへのリーダーとしての参加は、見送った。

(6) 評価計画 (平成26年度の進捗状況・課題)

【第一年次】

- | | | | |
|--------|-------|-----------|-----------------|
| ① 小学校 | ・実態調査 | ・全国標準学力検査 | |
| ② 中学校 | ・実態調査 | ・全国標準学力検査 | ・スピーキングテスト・英語検定 |
| ③ 高等学校 | ・実態調査 | | |

【第二年次】

- | | | | |
|--------|-------|-----------|-----------------|
| ① 小学校 | ・実態調査 | ・全国標準学力検査 | ・チャレンジタイム |
| ② 中学校 | ・実態調査 | ・全国標準学力検査 | ・スピーキングテスト・英語検定 |
| ③ 高等学校 | ・実態調査 | | |

【第三年次】

- | | | | |
|--------|-------|------------|-----------------|
| ① 小学校 | ・実態調査 | ・全国標準学力検査 | ・チャレンジタイム・児童英検等 |
| ② 中学校 | ・実態調査 | ・全国標準学力検査 | ・スピーキングテスト・英語検定 |
| ③ 高等学校 | ・実態調査 | ・スピーキングテスト | |

【第四年次】

- | | | | |
|--------|-------|------------|-----------------|
| ① 小学校 | ・実態調査 | ・全国標準学力検査 | ・チャレンジタイム・児童英検等 |
| ② 中学校 | ・実態調査 | ・全国標準学力検査 | ・スピーキングテスト・英語検定 |
| ③ 高等学校 | ・実態調査 | ・スピーキングテスト | |

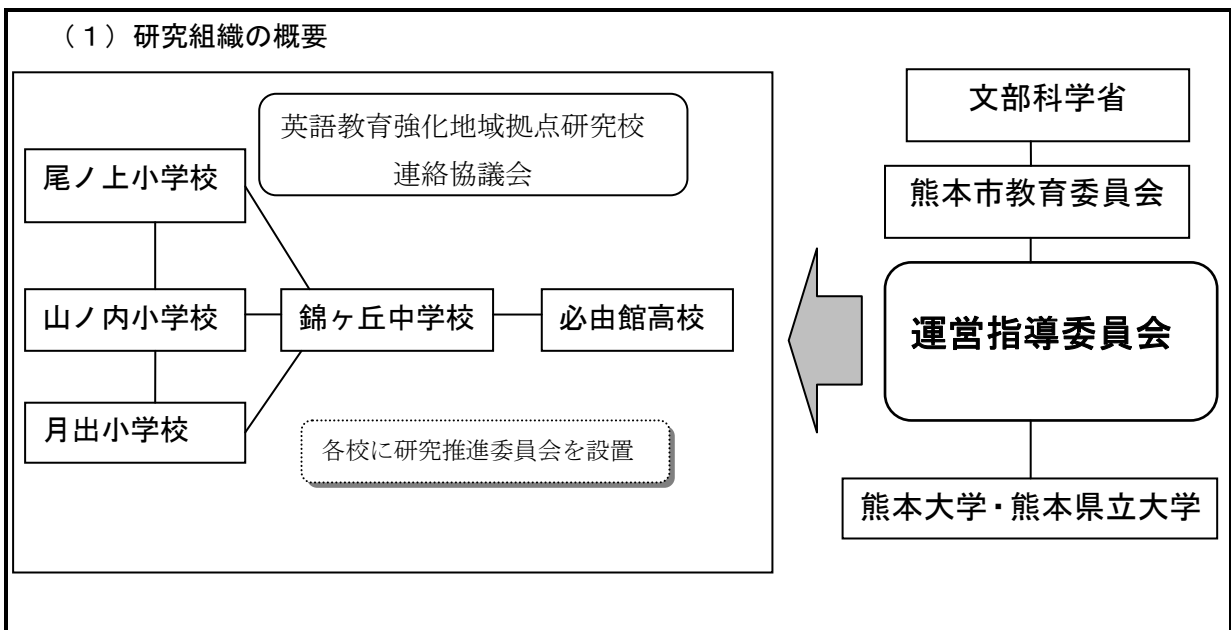
○平成26年度の進捗状況・課題

- ・3校種の実態調査は2月に実施予定。小・中の全国学力検査は、昨年4月に実施。いずれも、情意面と学力の基礎資料とする。
- ・小学校では、「チャレンジタイム」と名付けたテストによって、授業で慣れ親しんだアルファベットや単語、表現などについて、「理解」と「表現」に焦点を当てた評価を行う。

- ・特に小学校においては、各学年の授業の評価の在り方については、各時間、各単元、各学期等、様々な視点から工夫改善を行っていく。また、そこから授業改善につなげていく。
- ・中学校のスピーキングテストは、3月に1, 2年生において実施。聞くことと話すことに関して、理解の能力と表現の能力の評価を行う。同時に即興性についての評価も行う。また、外部試験による評価として、中学校ではすでに能力相当の級を取得している者を除いた、ほぼ全員の1, 2年生が本年度第3回目の英検を受検した。
(受検率1年97.8%、2年99.1%)
- ・高等学校に関しては、本年度と来年度は実態調査しか行わない予定だが、来年度は質問紙による実態調査に加えて、英語の能力（特に聞く・話す）に関する評価を行う方向で検討している。

4. 研究組織

(1) 研究組織の概要



(2) 活動計画（平成26年度の進捗状況・課題）

- 英語教育強化地域拠点事業の運営について、次の点について専門的見地から指導、助言、評価を行う。
 - ・運営及び研究開発についての指導助言に関すること。
 - ・年度末及び指定期間終了時における事業評価に関すること。
 - ・研究成果を普及する方策についての指導助言に関すること。
- 年に2回の運営指導委員会を実施する。
- 平成26年度の進捗状況・課題
 - ・6月の運営指導委員会では、この事業の研究内容、研究計画等の共通理解や研究の進め方について助言を頂いた。
 - ・運営指導委員会とは別に、本事業の各学校の担当者会を昨年末までに7回行ってきた。必要に応じて、会で協議した内容等を委員の方々にお知らせをした。また、委員の方の中には担当者会に参加される方もおられた。

・委員の方々に研究の推進状況をリアルタイムで知っていただく努力を怠らないことが今後ますます必要となってくる。

5. 年間事業計画

月	強化地域拠点の取組	運営指導委員会
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・熊本市研究指定校連絡会への参加（17日） ・標準学力検査 NRT の実施 	
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回英語教育強化地域拠点事業担当者会 ・小学校外国語活動・中学校英語科主任会において周知 ・各校校内研修 [校内研究への位置づけ、計画立案、校内研究組織づくり] 	
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校英語公開授業と授業研究会（幼小中連携の日 4日） ・英語教育推進リーダー中央研修参加（中学校 23～27日） 	第1回運営指導委員会 （錦ヶ丘中学校）
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回英語教育強化地域拠点事業担当者会 ・年間計画の作成と指導體制づくり ・第3回英語教育強化地域拠点事業担当者会 	
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・第4回英語教育強化地域拠点事業担当者会 ・熊本市イングリッシュキャンプへの優先参加（21～23日 錦ヶ丘中学校から生徒7人、教師1人） ・教育課程研究協議会において研究の概要について報告 	
9月	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校第3，4学年の「外国語活動型」授業開始 ・英語教育推進リーダー中央研修参加（小学校8～12日） ・直山調査官による実地調査 [午前中：授業参観（小学校4年、6年、中学校1年）、午後：拠点校対象指導講話、本市外国語活動担当者及び英語科主任全員対象講話] 	
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校授業研究会（英語）への参加 [7日学びわくわく授業研究会] ・第5回英語教育強化地域拠点事業担当者会 ・モデル校小・中学校教諭、品川区小山台小学校において長期派遣研修 	
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・第6回英語教育強化地域拠点事業担当者会 ・英語教育推進リーダー中央研修2に参加（中学校 10～14日） ・先進校視察（港区赤坂中学校） 	
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・2学期の取組の反省と3学期の志向 ・英語教育推進リーダー中央研修2に参加（小学校8～12日） ・第7回英語教育強化地域拠点事業担当者会 	

1月	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校公開授業と授業研究会（幼小中連携の日 14日） ・中学校1、2年英語検定（23日） 	
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・先進校研究視察 ・研究のまとめ、反省と志向 ・第7回英語教育強化地域拠点事業担当者会 ・小学校授業研究会（外国語活動）への参加[6日学びわくわく授業研究会] ・尾ノ上小学校（モデル校）公開授業（本市全小・中学校へ参加の呼びかけ） ・先進校視察（鳴門市教育委員会 林崎小学校） 	
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度の計画 ・中学校スピーキングテスト（1，2年） 	第2回運営指導委員会 （尾ノ上小学校）
<p>【その他の取組】※あれば記入</p> <p>○小学校では、週に1回、朝自習の時間に英語活動を行う。（但し、学校裁量で時数にはカウントしない）</p>		

（本事業担当連絡先）

都道府県教育委員会等名	熊本市教育委員会 指導課	担当（園田 恭大）
連絡先（電話番号）	代表：096-328-2721	（内線）2721
（電子メール）	直通：096-328-2721	E-mail：sonoda.yasuhiroB@city.kumamoto.lg.jp